

令和7年第11回女川町教育委員会会議録

1 招集月日	令和7年11月26日（水）
2 招集場所	女川町役場 3階 小会議室
3 出席委員等	1番 横井 一彦 委員 2番 新福 悅郎 委員 3番 中村 たみ子 委員 4番 山内 哲哉 委員 平塚 隆 教育長
4 欠席委員	なし
5 説明のため出席したもの	教育局 局長 新田 太 教育局 参事 佐藤 拓也 教育局 次長兼指導主事 佐々木 光春 教育局 次長 櫻井 政徳 教育局 教育指導員 坂本 忠厚
6 本委員会の書記	参事 佐藤 拓也
7 開会	午前10時00分
教育長	それでは、令和7年第11回女川町教育委員会を開会します。
8 会期の決定	会期は、本日1日限りといたします。
教育長	会期は、本日1日限りといたします。
9 前回会議録の承認	はじめに、前回の会議録の承認の件をお諮りいたします。 既に配付されておりますが、委員の皆様方何かお気付きの点はありませんでしょうか。 無いようですので、承認とさせていただきます。
10 会議録署名委員の指名	教育長 1番 横井 一彦 委員 2番 新福 悅郎 委員 よろしくお願ひいたします。
11 報告事項	教育長 次に、「報告事項」に入らせていただきます。 はじめに、私から報告いたします。 座ったままで失礼します。 改めまして、皆様、おはようございます。 まずは、横井委員、宮城県文化の日表彰における教育文化功労の受賞おめでとうございました。教育委員を20年間ということ

で、本当にすばらしいというか、ありがとうございますとしか言
いようがないのですが、今後ともよろしくお願ひしますとい
うことを改めて申し上げたいと思います。

先日の自主公開のご参観、本当にありがとうございました。
あとでも触れますけれども、まずは、実施して良かったのかなと
いうふうに思っているところであります。

気がつくと、来週からいよいよ師走を迎えて、2025年も残り1
ヶ月少々です。夏が長くて、いつ終わるのかなと思っていたら、いつの間にか冬が来たというのは、私だけの感覚じやない
かなというふうに思っているところです。

学校関係では、中学校第3学年でインフルエンザが流行してしま
い、先週の17日（月）の午後から19日（水）まで学年閉鎖とし
ました。

学校全体の流行を心配していたのですが、今のところ、小学校、
中学校を含めて少しづつ感染者は出ているのですが、通常どおり生活をしています。

これから時期、年度末の事務処理、それから授業時数の調整
等、何かと忙しいだろうなと思いつつも、中学校第3学年につ
きましては、いよいよ自分自身の進路実現に向けて真剣に向
き合わなければならない時期を迎えています。

ご存知かとは思うのですが、今年から願書のWeb出願も始まりま
す。間違いでは決して済まされないということをもう一回我々
も肝に銘じつつ、「15の春」を笑って迎えられるように、我々も
できる限りの支援をしていきたいと思っているところであります。

まず、学校関係です。

先月の会議でも話をしたのですが、10月29日（水）、挨拶・礼節
に係る講話ということで、講師に木村民男先生をお迎えして、
「心に響く挨拶を女川に広めよう」というテーマで、小学校5
年生、6年生、中学生にお話をいただきました。

前も話したのですが、もう少し前に実施してくれると良かった
なと思いつつも、自主公開への意欲付けという部分においては
タイムリーだったかなというふうな気もします。

11月7日（金）、自主公開を開催しました。

お手元に、参観者の皆様に書いていただいたアンケートをコピ
ーしましたので、後ほどご感想を委員の皆様から頂戴できれば
というふうに思っています。

13日（木）から2日間、秋田県東成瀬村へ今年度2回目となる

教育視察を実施しました。

本校の自主公開にも、東成瀬村の教育長をはじめ、7人の方にご参加をいただきました。

今後もいろいろと交流を重ねながら、東成瀬村の教育のエキスを吸収していきたいと思っているところであります。

会議、研修、教育委員会関係であります。

3日（月）文化の日に女川町読書マラソン完走賞の表彰式を実施しました。

これは、これまで行っていた多読賞に代わって、初めて行われたもので、本町の幼児、小学生を含めて14名の方々が受賞しました。

表彰式には、幼児の部に東松島市にお住まいのお子さん、お母さんにも参加していただいて、ありがとうございましたふうに感じました。

また、同じ日ですが、女川町弁論大会が開催されまして、小学校6年生が3人、中学校2年生1人が熱弁を振るいました。

また、アトラクションとして、女川小学校獅子振り隊の演舞、それから、石巻好文館高等学校マンドリン部の皆様の素敵な演奏で大会に花を添えていただきました。

9日（日）、第50回女川町民文化祭が開幕しました。まさしく文化・芸術の秋という言葉にふさわしい見事な作品がたくさん並びました。

10日（月）には、恒例となっている落語家の六華亭遊花さんをお招きしたミニ寄席、16日（日）には、カラオケ、バレエ、コーラス、お年寄りから子供まで楽しめるバラエティに富んだ構成のステージ発表で、閉幕となりました。

同じく10日、県・市町村教育委員会の教育懇話会全体会があつて、出席してきました。

次年度の学力向上、不登校に関わる取組についての説明が話合いの中心がありました。どの市町村も頑張っているなど改めて感じる時間でした。

県教育委員会からは、指導主事訪問を核とし、伴走型の形態を重視しながら、授業づくりを推進していくこと。さらには、学び支援教室事業の拡充を図りながら、子供たち一人一人のニーズに応じた支援ができる体制を整えていければという話がありました。

また、教育長さん方からも、市町村で行っている取組についての説明がありました。

その中で、やはり学力向上と学級づくりは親密に関わっている。学級づくりがしっかりとしていないところでは、学力の向上は期待できない。あるいは、Webランド、これは本町の小学校でもやっているのですが、それに参加している学校や学級は全国学力テストの平均正答率が高くて、やはり学級づくりが大切なんだということを改めて感じますということをおっしゃった教育長もいました。

本校においてはあまり当てはまらないかなとちょっと思っているのですが、今年も期待しているところあります。

12月のブロック会議が、いよいよ始まりました。お願ひすべきことはきちんとお願いしてまいりたいというふうに思っています。その他については、特にありません。

女川小学校・女川中学校の主な行事予定を含めて、学校から上がってきたものについて、詳しいことについては後ほど協議会の中でお話をさせていただきたいと思います。

結びになりますが、今年もあと1ヶ月少々であります。

12月に入ると、議会が間もなく迫ってきますので、頑張りたいと思いますということをお話申し上げまして、私からの報告とさせていただきたいと思います。

続いて、教育局長から報告させます。

それでは、私からご報告させていただきます。

それでは、日程関係です。

実施済みについては、ご覧のとおりとなります。

今後の実施予定です。

管内の教育長会議が11月26日（水）午後2時30分から石巻合同庁舎において行われます。教育長出席の予定です。

12月の定例議会が12月15日（月）からの予定で、会期は3日ないし4日くらいになる予定でございます。

12月の教育委員会定例会は、23日（火）午前10時から。場所は、この場所でお願いいたします。

11月17日（月）に令和7年第6回女川町臨時議会が開催されました。

今回は、報告2件と議案2件ありました。一般会計補正予算の専決処分については承認、一般会計、上下水道関係の補正予算については可決となりました。

また、新たに常任委員会の選任がありまして、教育委員会に関する産業教育常任委員会については、委員長に隅田議員、副委員長に阿部律子議員となります。その他の議員については、

資料のとおりとなります。

続いて、学校支援関係です。

女川町出身の洋画家佐藤幸子さんからポスターカードの寄贈の申し出がありました。12月中旬までに、小学校・中学校児童生徒及び教職員にポスターカードが寄贈されます。約400枚送られてくる予定であります。

続きまして、生涯学習事業についてです。

家読推進事業につきましては、11月22日（土）、子供司書養成講座の閉講式が行われました。6名の小学生の皆さんに認定証を交付しております。

また、同日に、手作り絵本コンクールの受賞者の表彰式も併せて行っております。

文化・芸術事業です。

町民音楽祭、12月14日（日）、山本譲二さん、女川町観光大使の山口ひろみさん、和太鼓奏者の三浦公規さんを迎えて、午後2時から開催される予定です。

続いて、「女川町協働教育プラットフォーム事業」に係るものであります。

12月20日（土）に、親子門松づくりと餅つき大会を勤労青少年センターで行います。

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」です。子ども放課後居場所づくり事業ですが、今後は、12月6日（土）と12月15日（月）の2回、特別講座を行います。

続いて、体育振興事業です。

11月のイベントについては、定例のトレーニング講習会、ヨガ教室、総合スポーツプログラム（アクティブクラブ）となります。これは実施済みでございます。

その他の大会については、女川町野球協会長杯野球大会が2日（日）に行われております。

また、令和7年度宮城県学年別柔道チャンピオン大会が16日（日）に総合体育館で行われ、この日に、ソウルオリンピック銅メダリストの山口香さんによる、柔道に関する講話を行っていただいております。

また、N P Oのスポーツ協会が去年も実施しましたが、「疾走中」ということで、「逃走中」をオマージュしたイベントですけれども、22日（土）に開催しております。

今後の12月のイベントですけれども、定例のトレーニング講習会、ヨガ教室、総合スポーツプログラム（アクティブクラブ）を

	<p>行ってまいります。</p> <p>以上となります。</p>
教育長	<p>報告は以上となりますが、委員の皆様から、ただ今の報告事項についてご質問、ご意見等ございましたらお願ひします。</p> <p>まず、自主公開のご感想などを頂戴できればというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、中村委員からお願ひいたします。</p>
中村委員	<p>正直、大変心配しておりましたけれども、でも当日は本当にいい公開になったのではないかなと思いました。子どもたちも先生も緊張感はありますし、小さなミスみたいなものもあったとは思うんですけども、全体的に、それから総合的に評価すれば、本当にいい評価にできるんじゃないかなというふうな感じで見ていました。</p> <p>いらっしゃった先生方ははじめ、地域の皆さんも、町民の方にもオープンにしてくださったということで、良かったのではないかなというふうに思いました。大変素晴らしい公開だったと思います。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>山内委員お願いします。</p>
山内委員	<p>今、中村委員からも緊張感という言葉がありましたけれども、非常に緊張感のある、子どもたちにとっても、先生たちにとっても、いい体験の場だったり学びの場だったのかなと思っています。</p> <p>あと、地域の方々も来られたということですけれども、個人的には、もうちょっと地域の方々に来ていただいて、情報もしっかりとキャッチをして、何の気兼ねもなく出入りするような、そういう自主公開であれば良かったなというふうには思っています。これが11月7日だけのイベントで終わりではなく、今後どういうふうにつながっていくかというのが課題であり、女川の教育がどういうふうに進歩していくかというか、進んでいくかの道しるべになるのかなと思うと、そのところにも期待していきたいというふうに思っています。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>新福委員お願いします。</p>
新福委員	<p>私は、自主研究公開という研究を外して自主公開というところをされていたので、研究ではなくて、女川の子どもたちがどう育っているのか見てもらいたいという、そういう大きな目的があ</p>

ったのかなと。

私が注目していたのは、前言いましたけれども、施設一体型の小中一貫教育の在り方がどうなのかというところを、今回の公開を通して示すことができたのではないかというふうに思いました。

感想を読むと、やはり、子供たちの活動とか、参観して非常に充実したものであった、すばらしいものであったという感想が非常に多いので、その部分は達成できたのかなというか、披露できたのかなというふうに思っております。

私はどうしても研究の目で見てしまうんですけれども、これを研究に高めていくためにはどうしたらいいのか考えてしまうのですが、でも、十分に今回の公開で、焦点を絞っていけば研究の高みまでもついていけたのではないかというふうに思いました。授業にしても、工夫してされておりましたし、私から見ると評価できる公開だったのではないかというふうに思います。

授業者も非常に頑張っておりましたよね。本当によく頑張っていたと思います。今一番授業ができる先生を選んでおられたのかなという気もしましたけれども、私は非常に興味深く音楽と算数を見させていただきました。

算数の授業は、前半部分はものすごく良く、100%かなと思ったんですけど、後半がちょっと物足りないなという感じがありました。もう少し課題を高くして、佐藤学氏が「ジャンプの学び」と言っていますけれども、そういう難しい課題をみんなで考えていくというのがあると、さらに良かったのかなというふうに思いました。

女川の今取り組んでいる教育のスタイルとその充実というところで、満足して皆さん帰っていただけたんじゃないかなと思います。

ありがとうございました。

横井委員お願いします。

教育長

横井委員

一番最後のご挨拶で教育長が述べられたことに非常に感銘を受けて、3年後にもう一度チャンレジされたら絶対いいなというふうな感じを持ちました。そういう目標を逆に持っていた方がいいのかなと。今度は、できれば、中学校をメインにしたような授業内容のものも取り組まれていかれたらどうなのかなと。

先程新福委員もおっしゃられていきましたけど、先生方のクオリティは、今皆さんにご覧になつていただけるベストメンバーで組まれているので、そういう点では、先生が普通は緊張して、そ

れが子供に伝わってみたいなところもあるんですけど、久々の公開授業だったんですけど、非常に余裕のあるというか、表情をとっても、子供たちが挨拶しなさいと言われて来る様子を見ても、非常にリラックスして、これだけの人に囲まれても表情に出るんだなと。

そういうことも含めて、非常にスムーズな運営だったなと思っております。

教育長

ありがとうございます。

教頭先生を中心になって進めてくれた指導主事からも、総括的に何か委員の皆様にありませんか。

佐々木指導主事

委員の皆様、当日はお越しいただいて、本当にありがとうございます。

自主公開に向けて、約1年前くらいから準備を始めていて、両教頭先生が代わった中で準備を進めていくことは結構大変だったんですけども、あと学校の先生方も、今公開をやっている学校はあまり多くないので、初めて公開を経験する先生方もたくさんいました。その中で、今回、11月7日にこのような形で公開を終えることができて、先生方も一人一人が成長を実感できたのかなというふうに感じています。

特に「協働的な学び」が今国からも言われている中で、どの教科でもその部分について力を入れて取り組んできました。

新福委員が言われたとおり、算数の後半部分の適用問題の解き方については、学校でも今検討しているところで、現在は、できるだけたくさんの問題を用意して、難しい問題にチャンレンジする子、簡単な問題をたくさん解く子というふうに分かれて、個人に合わせて取り組んでいるんですけども、そうではなくて、今後は、全員が悩むような課題を提示して、その課題を解決するために全員で取り組むようなものにちょっとステップアップしていければいいかなというふうに考えています。

校内研究も今年が2年目ですので、次年度が3年目となりますので、総括する意味でも、来年1年間がすごく重要なのかなというふうに考えています。

それから、運営面についても、受付案内なども、できるだけ児童生徒が活躍する場面を設定してみました。

準備が若干ずれ込んでしまって、もうちょっと早く取り組めばもうちょっと違った形もお見せできたのかなというところの反省もありますので、今度、3年後になると思うんですけども、そういったところをしっかり引き継いでいきたいというふうに

思っております。

ありがとうございました。

以上です。

教育長

どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。中村委員。

中村委員

感想を読ませていただきと、やはり皆さん、「本当にいい公開だった」というお言葉が多いんですけど、年間指導計画はどうなっているのかというその辺の疑問を持たれた方もやはりいらっしゃったので、いつも考えていることなんんですけど、小中一貫した教育活動を進める時に、小学校のカリキュラムと中学校のカリキュラムをどのように融合して、また整理立てて活用していくかというところは、すごく問題になるところだと思うんですね。だからそれがしっかりとしないと、その場限りの、あるいはその年度限りの教育活動になって、次につながらないということもあるので、年間指導計画を小中一貫としてどのように捉えて作成していくかが、これから課題になるのかなというふうに思います。これが大きな柱としてきちんとすれば、毎年公開してもうれしいのではないかと思いますけれども、なかなかその辺難しいですね。小学校単体だけでも難しいのに、小学校と中学校のカリキュラムをどう兼ね合いをとって一つの小中一貫校として作成していくのかというのは、かなり難しいことだと思うんですね。時数もそうですし、それから1単位時間も違いますから、その辺の作成をこれからどうやっていくのかというところですね。

教育長

ありがとうございました。

今中村委員からご指摘いただいたことは、実は前田先生からもお話をいただきいて、この前、講評の時もちらっと似たような話を聞いていただいたのですが、そのあたりについては、大きな課題だなと思っています。

今現在のもので言うと、「女川プラン」というものがあって、それに頼っている部分があって、細かい年間カリキュラムという部分においては多分作っていないんですよね。今後、だから沿ってある程度作っていかなければいけないなと思いつつも、でも、あまりそこに行ってしまうと、それで終わってしまうこともあるので、そのあたりについては、学校とも相談しながら決めていきたいというふうに思います。

ただ、最低ラインの数字、私もいろいろなことを言うんですけど、学校に対していろいろ要求はしますが、やはり「15歳の姿」

というのをみんなでまず確認するところからスタートしていくかないとだめだよねという話もあって、そのたびに、小1、小2、小3、小4、それを全部の部分を網羅した年間指導計画というのはなかなか大変だなと思いつつも、ただ、核となるものはもうちょっと膨らませていく、それを気付かせていただいた今回の公開だったなということを改めて感じている部分です。

中村委員

全体のものを一気に作るというのは本当に難しいことなんですが、部分交流とかありますよね。例えば、公開の時は中学校の総合と小学校1年生。その小学校1年生のカリキュラムはどうなっているんだということでご質問させていただいたんですけど、そういうふうな部分交流のあたりをカリキュラムの中にポイント的に当てていけば、それほど動かさなくても年間の指導計画というのは作成できるはずなんですね。そういうところをポイント、ポイントで交流したカリキュラム作りをやっていけば、それほど大きな作業を伴わなくてもできると思うし、例えば総合の時間に関して言えば、中学校は総合、小学校1年生は何で取っていますということで、そのカリキュラムの中に位置付ければ、カリキュラム上のきちんとした授業体系になるというようなことをやっていけばいいと思います。

あと、小・中学校だけじゃなくて、小学校の中でも、学年を超えた交流、例えば6年生と1年生、5年生と6年生というような形でもカリキュラムは作れるんですね。そういうふうに部分交流したところをカリキュラムの中に起こしていけば、全体をいじらなくても、きちんとしたカリキュラムは作れるんじゃないかなと思います。

教育長

ありがとうございました。

その部分については、学校とも相談しながら進めていきたいと思います。

ほかにございませんか。

では、自主公開以外の部分で、何か皆様方からありませんか。1点だけいいですか。

弁論大会で中学校の部が1人だけだったんですけど、これは何かあったんでしょうか。

教育長

毎年2人出ていたんですね。なぜ2人かというと、中学校の弁論大会は、少年の主張弁論大会に出る子と、中学校の弁論大会が別にあって、その代表の子たちにいつも発表してもらっていました。ところが、代表の1人が「町民文化祭は大丈夫です。2年生の女の子に気持ちを託しますので」と言って、「ご遠慮申し

横井委員

上げます」と言うんですね。ということで今回は1人になってしまいました。

前に審査員をさせていただいた時は、大抵1、2、3学年とか、あるいは同じ学年でも3名ぐらいという、3人はという感じでしていたような印象が強かったので、急に1人というのは、今まで聞いたことがないなと。

夏休みのまなびやもそうだし、いろいろな場面で、もう少し「どうだ」と声をかけて促すということがあってもいいのかなと思うんです。急に体験というか、同じ人が同じように2回も3回も話すということよりも、いろいろな人にそういう場を体験してみなさいと。海外に行くだけじゃなくて、人前で緊張をするということをいろいろな形で味わってもらうというか、そういうことも大切なことなのかなと思っている方なので、できれば、同じ大会にいろいろな形で出ているという人も確かにすばらしいですけど、そうじゃない子も人前で話すという、そういうことの機会をぜひ生かしていってもらえば、そもそも弁論大会の意義といいますか、決して上手な子だけが賞を取って「よかったです」ではないと思っているんです。その辺の促し方というか、先生方に幅広く普段からしていてもらえば、いい機会になるのかなと思っています。

教育長

変ってきてますものね。「伝え合う力」というのが出た頃というと、10年前、20年前になってしまふんですけど、学級弁論大会、学年弁論大会、校内弁論大会というのが学校の一連の教育活動に位置付けられていて、ちゃんと子供たちは話さなければいけないんだという意識でやっていたんですね。それが、どんどん時数もあって削られて、必ず校内弁論大会をやらなければならないんですかというところからスタートして、今は校内弁論大会をやっている学校は多分ないんじゃないですか。今回話した子もおそらく、「あなたやってみる?」と国語科の先生が呼び掛けて、ピックアップして、「じゃあ書いてみなさい」と言って、多分書いた子。横井委員おっしゃったように、本当だったらそうしなければならないんですね。授業の中でもそういうふうな単元は今も残っているとは思いつつも、何かなどともちょっと思っています。

私が来てからは、ずっと2人でしたから。ここ4年間、管内弁論大会に出た子と少年の主張に出た子が中学校の代表で、小学校については、6年生が多い時だと5人ぐらい話していました。去年は5人ぐらい話したんじゃないですかね。今年は3人とい

	うことで。
横井委員	審査員を外れて3年目なんですけど、おっしゃるように流れといふか、傾向がどんどん変わっているというのは理解はしているんですけど、せっかくこういうふうな形で、こういう小さい町でやっている行事という中で、いわゆる弁論というよりも、そういう機会というか、「人前で話す」とか「伝える」ということの大変なポイントというか、そういうものを体験してもらうとしてもいい機会かなと思ってやってきた方なので、ぜひいろいろな形で、急に近くになってからというよりも、いろいろフリーで声掛けしてやってもらうと一番いいのかなとは思います。
教育長	分かりました。そのあたり中学校に呼び掛けてみたいと思います。ありがとうございます。
	ほかにございませんか。
	(「ありません」の声あり)
教育長	それでは、報告事項については、以上とさせていただきます。
12 そ の 他	
教育長	それでは、6番「その他」に入ります。
	何かその他で報告等ございますか。
教育局長	それでは、私からご報告させていただきます。
	2025年11月4日付けにて、宮城県教職員組合執行委員長から、「子どもを大切にし、学校教育を充実させるための教育条件整備を求める要請書」の提出が町長宛てにございました。
	未来を担っていく子供たちと、教育を担っていく学校・教職員に予算をかけることは、将来の我が国を支える大きな土台を作ることにつながるとして、教育予算の充実のために、1、多様な子どもたちへのきめ細やかな対応のために、自治体独自の少人数学級の実現や教職員配置を進めること。2、保護者の負担軽減のために、子どもの貧困対策にもつながる給食費の無償化を進めること。3、教職員の長時間労働解消のために、教職員の業務量の適切な管理と健康・福祉を確保するための措置を実施するため、業務量管理・健康確保措置実施計画を作成し、時間外勤務の縮減を図るよう指導すること。4、学校教育の支援のために、学級担任をサポートする支援員、ICT支援員、部活動指導員等を増員すること。5、理科室や音楽室、美術室などの特別教室及び体育館にエアコンを設置すること。6、学校のトイレの洋式化を進めること。7、学区の見直しや統廃合では、地域住民への丁寧な説明を行うことなどを要請する内容となっております。

	<p>また、もう1件につきましては、2025年11月12日付けで、宮城県高等学校・障害児学校教職員組合の執行委員長からの要請であり、その中で教育委員会関係としては、2番の高校生、専修学校生、大学・短大生に対する給付型奨学金制度を創設するよう県に対し要請し、また、自治体独自の給付型奨学金の創設を要請するという項目でございます。</p> <p>この2件につきましては、教育委員会に対する陳情等の取扱いに基づくこととし、教育長がその内容を確認した上取扱いを判断した結果、直近の教育委員会へ報告することとしたことから、今般、この写しを配付させていただいたものです。</p> <p>以上、要請書に関するご報告とさせていただきます。</p> <p>この件については、よろしいですね。報告ということで、報告をさせていただきました。</p> <p>ほかにございませんか。</p> <p>なければ、「その他」については、よろしいでしょうか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p>
教育長	<p>それでは、再来月の日程を組ませていただきます。</p> <p>12月の開催は、12月23日（火）午前10時からになります。</p> <p>1月の教育委員会は、教育現場視察として女川小・中学校の授業参観と給食の試食も行いたいと思います。委員の皆様、ご都合はいかがでしょうか。</p> <p>[1月27日（火）午前10時からということで調整]</p>
教育長	<p>それでは、1月の教育委員会は、1月27日火曜日午前10時からということで、組ませていただきます。場所は、学校の会議室です。</p> <p>ほかにございませんか。</p> <p>なければ、本日の教育委員会をこれで終了させていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
13 閉　　会	<p>午前10時40分</p>
14 この会議録の作成者は、次のとおりであります。	<p>参事 佐藤 拓也</p> <p>上記記録の正確なることを認めここに署名する。</p> <p>令和7年12月23日</p>

会議録署名委員

1番委員

横井一彦

2番委員

新福悦郎